

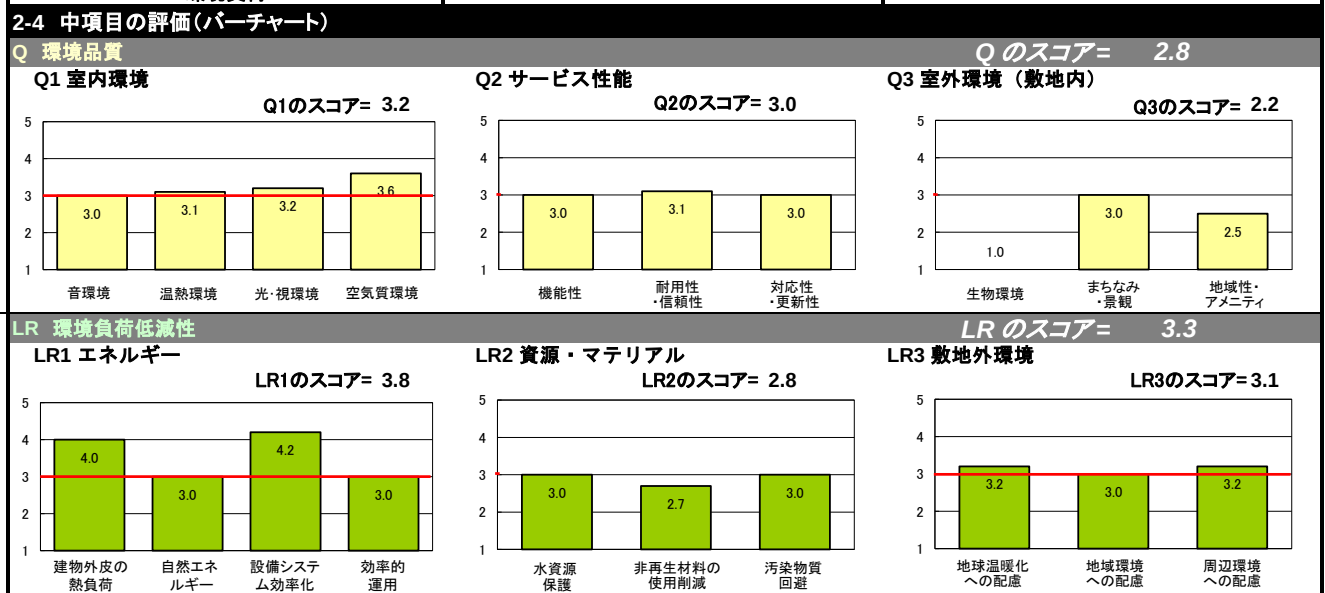
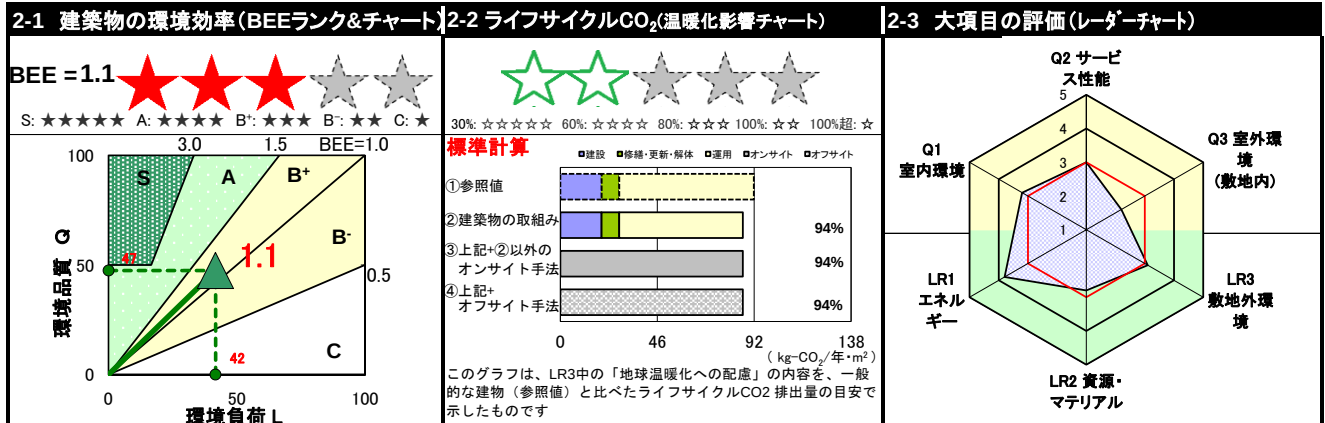


評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境性能評価システムマニュアル2016 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中村区名駅南3丁目 新築工事	階数	地上15F地下0階
建設地	名古屋市中村区名駅南三丁目705番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2025年9月29日
敷地面積	722 m ²	作成者	
建築面積	365 m ²	確認日	2025年9月29日
延床面積	4,033 m ²	確認者	

外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
LED照明・ノンフロン断熱材・節湯水栓を積極的に採用している建築物です。		特にありません。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
F★★★★をほぼ全面的に採用し、化学汚染物質による空気質汚染を回避しています。	給排水配管において更新必要間隔の長い配管を使用したり、維持管理しやすい設計となっています。	連続する塀ではなく見通しのいいフェンスを採用することで防犯性・防災性に配慮しています。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
LED照明や、玄関照明における人感センサーの採用など、一次エネルギー消費量を抑える対策を取ることで、環境負荷への配慮をしています。	躯体と仕上げ材が容易に分別できる材料を使用しています。	十分な駐車場・駐輪場を設けています。また外部に漏れる照明について、点滅させたりしません。広告物照明も設けません。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)中村区名駅南3丁目 新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.6
LR1	エネルギー	3.8	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.6
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.5	0.016666667	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.6
	
2. 自然共生	評価点 = 1.6
	
3. 循環型社会	評価点 = 2.8
	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2)において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。